

入院のみ 外来のみ ○共通	適応がん種	レジメン名(略語)	臨床使用分類	抗癌剤適応分類	1コース期間
	非扁平上皮 非小細胞肺がん	キイトルーダ+ALM 維持療法	○日常診療	術前化学療法	3週間
			臨床試験承認済・審議中	術後補助療法	予定総コース PDまで
			治験承認済・審議中	進行・再発	
		その他(維持療法)			

☆上記のうち該当箇所○を付けてください

処方No	薬品名(商品名)、溶解液の種類と量	1回投与量	投与時間又は用法	投与日(d1.8など)	投与経路
1	生理食塩液	200 mL	55分	d1	主管
2	キイトルーダ 生理食塩液	200mg/body 100mL	30分	d1	側管
3	デカドロン 生理食塩液	2A 100 mL	15分	d1	側管
4	アリムタ 生理食塩液	500 mg/m2 100 mL	10分	d1	側管
5	パンピタン	1g	1×	連日	内服
6	VB12	1000µg	1×	9週毎	筋注
7	デカドロン	0.5mg/日	1×	d1-5	内服

留意点 および 急性期 有害事象等	<p>&lt;投与基準&gt;</p> <p>・PD-L1の発現に関わらず非扁平上皮がんにおける「キイトルーダ+CBDC+PEM」一次治療後の維持療法 WBC&gt;2000/mm3、Neutro&gt;1000/mm3、Hb&gt;7.0g/dl、PLT&gt;50,000/mm3、総ビリルビン≤3.6mg/dL、AST/ALT&lt;施設基準値上限の3倍、血清クレアチニン2.7mg/dl以下、SpO2&gt;90%、体温&lt;38℃治療開始前にHBs抗原、HBc抗体およびHBs抗体を測定し、アルゴリズムに沿ってHBV-DNA定量検査を行うこと。</p> <p>&lt;減量基準&gt;</p> <p>・Ccr&lt;45mL/min ではALM 投与に関する十分なデータが存在しないため投与の有無を慎重に検討する。</p> <p>・キイトルーダ</p> <p>【間質性肺炎】</p> <p>・grade2→Grade 1以下に回復するまで休薬。 4週間を超えてGrade 1以下に回復した場合、投与間隔を3週間として再開 12週間を超える休薬後もGrade 1以下まで回復しない場合には、本剤を中止。</p> <p>・Grade 3以上又は再発性のGrade 2→中止</p> <p>【大腸炎・下痢】</p> <p>・Grade2又は3→Grade 1以下に回復するまで休薬。 12週間を超える休薬後もGrade 1以下まで回復しない場合には、本剤を中止する。</p> <p>【肝機能障害】</p> <p>・AST/ALTが基準値上限の5倍超又は総ビリルビンが基準値上限の3倍超に増加した場合→中止 ・肝転移がある患者では、AST/ALTが治療開始時にGrade 2で、かつベースラインから50%以上の増加が1週間以上持続する場合→中止</p> <p>【内分泌障害】</p> <p>・Grade 2以上の下垂体炎→Grade1以下に回復するまで休薬。 ・症候性の内分泌障害(甲状腺機能低下症を除く)→Grade1以下に回復するまで休薬。 ・Grade 3以上の甲状腺機能障害→Grade1以下に回復するまで休薬。 ・Grade 3以上の高血糖→Grade1以下に回復するまで休薬。 ・1型糖尿病→Grade1以下に回復するまで休薬。</p> <p>12週間を超える休薬後もGrade 1以下まで回復しない場合には、本剤の中止を検討する。</p> <p>&lt;その他注意&gt;</p> <p>&lt;ALM&gt;</p> <p>・投与7日前より葉酸0.5mg 連続経口投与、および9週毎にVB12 1mg の筋肉注射を確実に実施する。 (ベースラインのホモシステイン濃度の低下を目的とする)</p> <p>・皮疹予防のため、Dex 0.5mgを5日間内服。 (臨床試験(pIII)ではALM投与の前日から投与の翌日までの3日間、デキサメタゾン1回4mg、1日2回経口投与)</p> <p>・過量投与となった場合には、症状に応じた支持療法を行う他、ホリナートカルシウムによる処置を検討。</p> <p>&lt;キイトルーダ&gt;</p> <p>・インラインフィルター(0.2~5µm)を使用すること。 ・25℃以下で6時間以内又は2~8℃で合計24時間以内に使用すること。</p>
	参考文献

夜間、帰宅時、対応医師への連絡先	平日の日中は呼吸器外来(3111,3112) 夜間や休日は当直(8029,8019)
------------------	---